

町と並べ載せたり。今此の町名絶えて知るものなし。蓋し元祿の頃は六助林の小名にて、長國寺の門前をば呼びたりけん。

○安宅山長國寺

曹洞宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當時は玉龍寺之塔頭に而、元は尾州に有之處、玉龍寺加州へ引越之頃隨從致し、小松に罷在、初は平僧持之處、玉龍寺八代徳岩長老より智識持に成候。寺創立之年代不詳。加州へ引越候は天正十三年に而、萬治元年利常卿逝去之砌小松より金澤へ引越處、請屋敷不調。其後玉龍寺之先住像座長老より、寺社奉行永原左京・篠原織部へ委細斷申立、則泉野百姓地を請、寺造營仕。とあり。

○寶林山妙感寺

法華宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開基日治、天正十九年能美郡小松城主村上周防守より、小松そうけ町に於て寺屋敷賜はり、其節妙感与申人、菩提所に取立候故、則妙感寺与號す。微妙小松御隠居之節、寺屋敷御用地に被召上、替地相願候へ共不被仰付、地子地に居候處、小松引越

之時分、檀那共金澤へ引越に付、金澤へ罷出、泉野本覺寺地内に借地罷在、寛文十一年寺社奉行永原左京・篠原織部吟味之上、泉野六斗林請地五百歩被仰付。とあり。

右長國寺妙感寺より以南の地は、泉野の村地にて請地なりしゆゑ、延寶金澤圖には、開禪寺・龍淵寺の寺地までを記載し、夫れより以南は記載せず。

○龍徳寺町

元祿九年の地子町肝煎裁許附に、泉寺町・龍徳寺町・長國寺町と並べ載せたり。今此の町名絶えて知るものなし。元祿の頃は六助林の小名にて、龍徳寺の門前をば呼びたりけん。

○雲起山龍徳寺

曹洞宗也。由來書に云ふ。當寺恕龍和尚正保四年に建立、開山は天徳院二世龍睡和尚に而、則天徳院之末寺也。然處無檀那故、年久敷無住に相成居候處、元文五年天徳院五世良因和尚再興被致、其刻智識所に被願上、只今智識所に有之。寺地は地子地に罷在。とあり。

○本光寺上地町

三州志來因概覽附録に載せたる享和三年幕府へ進達ありし

金澤町名附に、六斗林町の小名に、本光寺上地町といふ町名を載せたり。此の町名今知るものなし。享和の後絶えたりけん。故に其の町の地所も今詳かならず。按するに、此の地は卯辰法華宗本光寺の舊地なるべし。貞享二年の本光寺由來書に、瑞龍公高岡より金澤へ御越之時、泉野寺町にて寺地拜領仕處、高岡より遠く罷越、上り地に成、卯辰山地子地に罷在、微妙公より九百歩拜領仕。とありて、泉野寺町にて寺地拜領仕ると載せたる上り地をば、後に本光寺上地町とて、町家建の地子地に成りたりしと聞ゆ。

○しうめ谷橋

金澤橋梁記に、しうめ谷橋六斗林とあり。此の橋名今知るものなし。地黃煎町の橋ならんか。

○地黃煎町

昔は古地黃煎町と呼べり。古地黃煎町の名は、改作所舊記に載せたる寛文二年六月郡奉行よりの達書に古地黃煎町と見え、同十一年六月算用場よりの達書にも、古地黃煎町とあり。また據事集録に載せたる正徳四年門松拜領の覺書に、於古地黃煎町端可相渡など記載し、明和二年山伏寶高寺氏

子地書立の書中に、富樫郷古地黃煎町と載せたり。但し此の書立は、舊記に據りて古地黃煎町とは書き載せたるなるべし。明和の頃は地黃煎と呼べり。抑此の地は六助林の小名にて、元は泉野村の地なるを、泉野の邑民出作りして初て家建せしゆゑ、元は泉野新百姓と稱し、泉野の支村なりしかど、今は地黃煎村とて一村と成りたり。但し昔は其の村地に町家を建て、之を古地黃煎町と稱し、那地の町家にて、金澤町地より離れたる地なりしを、追々建廣め、遂に町繼きとは成りたりといへ、尙文政四年二月郡地のヶ所金澤町奉行支配と成りたる時も、泉野村領六斗林は六斗林町之内へ建込め、橋より末は地黃煎町とありて、もと相對請地にて那地なりしなり。然るに明治十二年郡地のヶ所町地に屬せられし時、初めて一般の町地とは成りたり。按するに、此の地と大樋町とは那地ながら、昔より町名に呼び來れり。高澤忠順の金澤事蹟必録に、地黃煎町は泉野村の内にて新村同事也。百姓地なれども町續にて、此所に飴屋ある故に地黃煎町と呼びたり。算用場にては泉野新百姓と稱すといへり。但し今按するに、飴商賣人居住すとて、地黃煎